

軽自動車時代の先駆

鈴木自動車工業のスズライト

■鈴木式織機製作所の自動車メーカーへの参入

鈴木道雄は請負師の親方の足踏式織機製作の知識と技術を学び、静岡で鈴木式織機製作所を1920年(大正9)設立した。市場を海外にも広げて順調であった。鈴木道雄は新しい事業に積極的で、「将来四輪車の時代がくる」と確信して1930年、自動車開発に取り組んだ。1936年、小型乗用車オースチン・セブンを基に研究して、試作車数台を製作した。しかし、開発は戦争で中断した。

戦後、鈴木式織機は陸軍から払い下げられた6号無線発動機用エンジンで、二輪車製造事業に参入した。1952年、排気量30ccの自転車用補助エンジンを取り付けたパワーフリー号を発売した。翌年、60ccエンジンに拡大したダイヤモンドフリー号はヒットして月産4000台となる。1954年(昭和29)に4ストローク、排気量90ccの小型オートバイ「コレダ号C0型」を発売した。同年に社名を「鈴木自動車工業株式会社」(現、スズキ(株))に変更し、自動車メーカーへの進出を準備した。

■日本初の軽自動車「スズライト」の開発

日本の軽自動車の規格が1949年定められた。全長2800mm、全幅1000mm、エンジンは、4ストロークが150cc、2ストロークが100ccという非現実的なものであった。その後度重なる規格改定で、全長3000mm、全幅1300mm、エンジンは4ストロークが360cc、2ストロークが240ccとなった。また、1954年、軽自動車規格が2ストロークエンジンでも排気量360ccまで認められ、軽自動車開発が現実的となった。

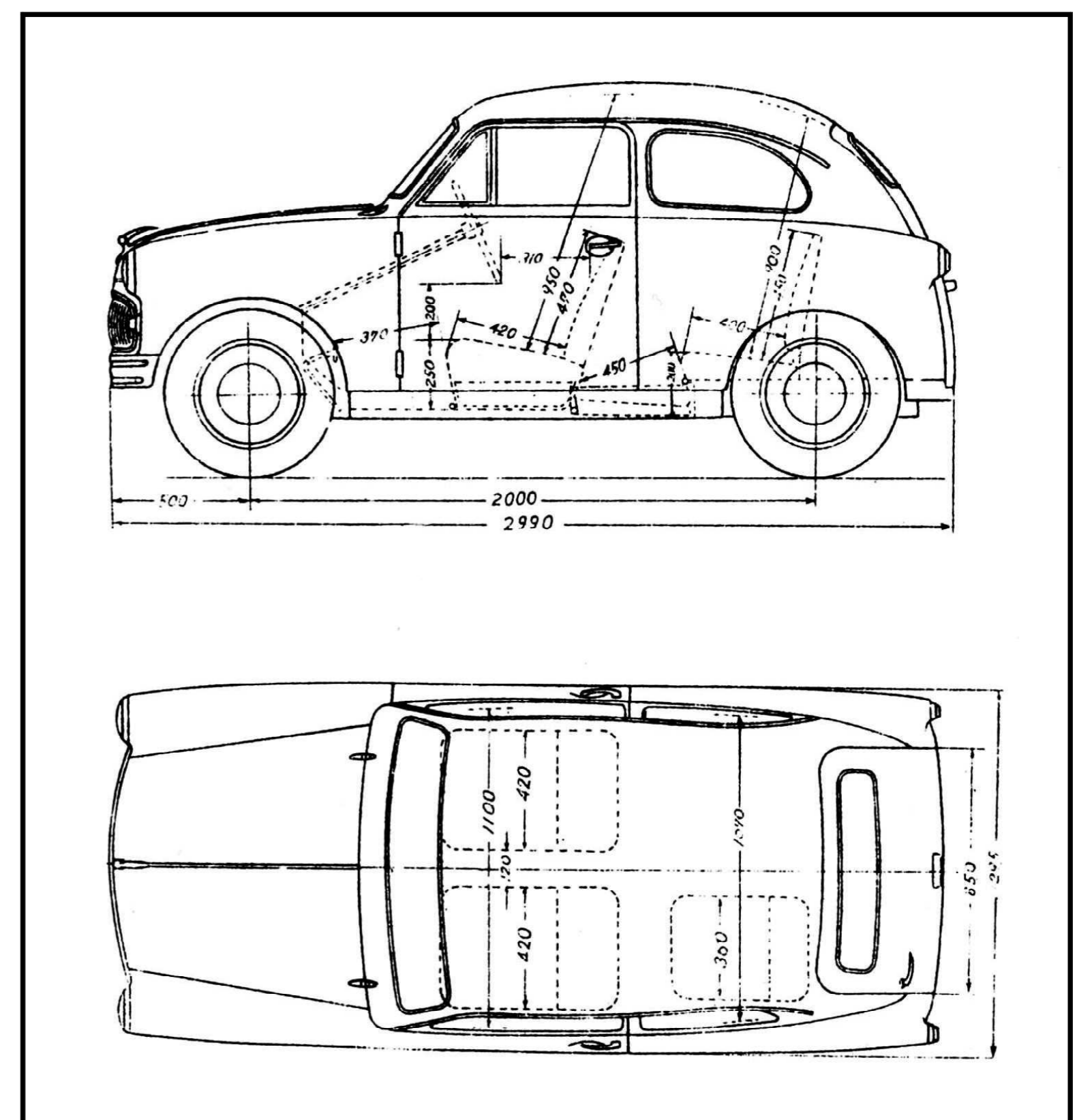
鈴木道雄の娘婿の鈴木三郎をリーダーとした開発チームは、外車を4台購入し、分析をした。その結果、ドイツのロイトLP400がFF車(前エンジン、前輪駆動)でモデルとして軽自動車の開発を進め、1954年9月に第1号車試作車を完成させた。東京の築瀬自動車の築瀬次朗社長に出来た軽自動車を見せて感想を聞くために浜松から東京まで踏破した。築瀬氏は自ら運転し都内を走り、性能に太鼓判を押し賞賛した。

鈴木自動車工業は試作や耐久性・走行試験などを実施し、6号車まで改良を重ねて1955年(昭和62)7月に型式認定を取得した。軽自動車としては第23号の型式認定であった。日本の量産軽自動車として初となるスズライトは、同年10月に発売された。スズライトの「スズ」はススキの略、「ライト」は軽いという意味の他、光明を意味している。スズライトの先進的なメカニズムは、FF(前エンジン、前輪駆動)方式で、この方式を日本で初めて採用したのは先駆的といえる。日本でFF車が普及する1970年代になってからである。FF方式の採用で車内のスペースを広く取ることができた。直列2気筒2ストロークエンジンのシリンダブロックは中日本工業で鋳造、車載電装品は日本電装で賄い、他社の協力を得た。

当時は軽自動車は比較的容易に取得できる二輪車免許で運転できた。初の4人乗り四輪軽自動車スズライトの最初のユーザーとなったのは、女性開業医であった。自動車免許の運転講習を受ける暇がない開業医が買い求めた。



初期のスズライトSS (出典:『スズキストーリー』三樹書房)



スズライトSSの外観図
(出典:『スズキストーリー』三樹書房)



初のFF車「スズライト」(1955) (写真:スズキ(株)提供)